

宇田雄一「古典物理学」

ているのかが分かりにくいときには、本書では $\delta(\square, \square)$ とか $\delta(\square)$ と書いてハッキリさせることにした。定義域をハッキリさせるために $\delta(3, 3)$ などと書いたところもある。 $A \subset \mathbb{Z}$ とし、 $M, N \in \mathbb{R}(A \times A)$ とするとき、

$\sum_{i \in A} M(A, i) N(i, A) = \delta(A, A)$ ならば、 M を N の逆行列と呼ぶ。

M が N の逆行列ならば、 N は M の逆行列になる。逆行列は逆写像ではない。

⑤予約語 η を次式で定義し、これをローレンツ計量と呼ぶ。

$$\begin{aligned}\eta \in \mathbb{R}(4 \times 4) \text{ and } \eta(1, 1) = \eta(2, 2) = \eta(3, 3) = -\eta(4, 4) = -1 \\ \text{and } [\forall i, j \in 4; i \neq j \Rightarrow \eta(i, j) = 0]\end{aligned}$$

⑥予約語 ε を次式で定義し、これをレビュイチヴィタの反対称テンソルと呼ぶ。

$$\begin{aligned}\varepsilon \in \mathbb{R}(3 \times 3 \times 3 \cup 4 \times 4 \times 4 \times 4) \text{ and } \varepsilon(1, 2, 3) = 1 &\quad \vdash \S 2-5-2 \text{ 参照。} \\ \text{and } \varepsilon(1, 2, 3, 4) = 1 \text{ and } [\forall i, j, k, l \in 4; \varepsilon(i, j, k, l) = -\varepsilon(j, i, k, l) \\ = -\varepsilon(k, j, i, l) = -\varepsilon(l, j, k, i) = -\varepsilon(i, k, j, l) = -\varepsilon(i, l, k, j) = -\varepsilon(i, j, l, k)] \\ \text{and } [\forall i, j, k \in 3; \varepsilon(i, j, k) = -\varepsilon(j, i, k) = -\varepsilon(k, j, i) = -\varepsilon(i, k, j)]\end{aligned}$$

さらに関数の具体例を述べるための準備として、ここで、シグマ記号 Σ を説明しておく。 A を集合とし、 $F \in \mathbb{R}(A)$ とし、 $n, m \in \mathbb{N}$ とするとき、

$n \geq m$ and $\{m, \dots, n\} \subset A$ ならば、

$F(m) + F(m+1) + \dots + F(n)$ を $\sum_{i=m}^n F(i)$ とか $\sum_{i \in \{m, \dots, n\}} F(i)$ と書くことがある。

$\sum_{i=m}^n F(i)$ を $\sum_{r=m}^n F(r)$ とか $\sum_{\sigma=m}^n F(\sigma)$ と書いててもよい。 \forall や \exists のときと同様だ。

もちろん、 $n = m + 1$ の場合には、これは $F(m) + F(m+1) + F(n)$ ではなく $F(m) + F(n)$ を表すし、 $m = n$ の場合には、 $F(m)$ を表す。

A, B を集合とし、 $F \in \mathbb{R}(B \times A)$ とし、 $n, m, u, t \in \mathbb{N}$ とするとき、

$n \geq m$ and $u \geq t$ and $\{m, \dots, n\} \subset A$ and $\{t, \dots, u\} \subset B$ ならば、

$\sum_{j=m}^n F(t, j) + \sum_{j=m}^n F(t+1, j) + \dots + \sum_{j=m}^n F(u, j)$ を $\sum_{i=t}^u \sum_{j=m}^n F(i, j)$ と書くことが出来る点

などにも注意したい。